

低線量肺がん CT 検診のすすめ

1. 日本における肺がんの現状と低線量肺がん CT 検診の目的

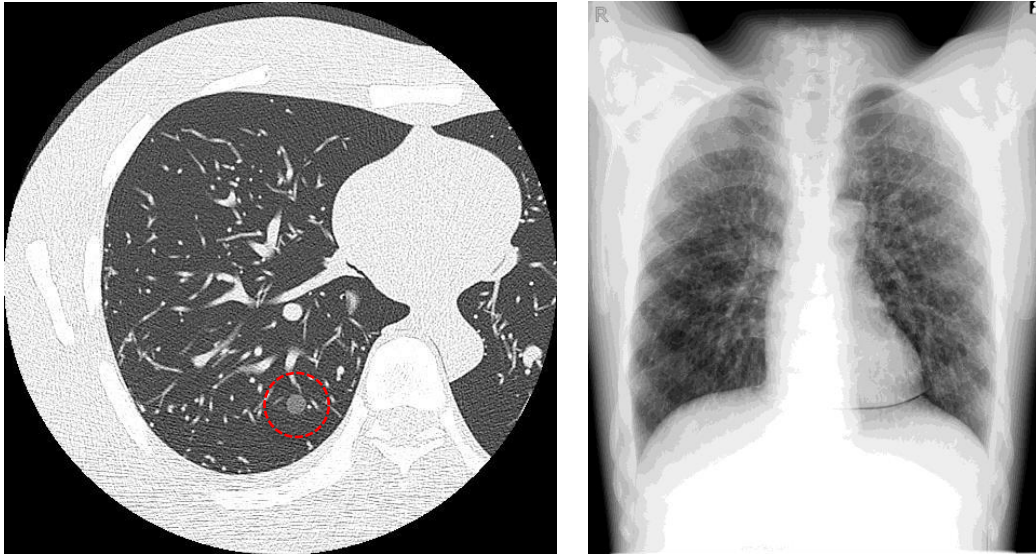
日本における悪性腫瘍による死亡の第 1 位は肺がんです。肺がん死亡を減少させる事が日本の公衆衛生、医療における最優先課題の一つとなっています。

肺がん死亡を減少させる対策として、早期に肺がんを発見する努力が有力な方法と注目されています。従来の単純 X 線検診と比較して、CT 検診による肺がんの発見率は約 10 倍高いとされています。また発見される肺がんは早期である比率が高く、その治療成績も良好とされています。

低線量肺がん CT 検診では、肺がんの早期発見率を向上させ、より治療を早期に始め肺がんによる死亡を減少させることを目的としており、全国的にも注目されている検診です。

2. 低線量肺がん CT 検診の特徴

- 低線量：検診では、大多数の方が健康な状態にあり、不必要な被ばくは避けるべきとされています。このため診断が可能な最低限の線量で撮影を行っています。通常の体重の方で実効線量で、約 0.6mSv。人間が 1 年間自然界から受ける放射線量は世界平均で約 2.4mSv と言われていますので年 1 回の撮影であれば、無視できるレベルの被ばくの検査です。
- 最新鋭の CT 装置：最新鋭の CT 装置を用いて検査を行います。装置に内蔵されている画像上のノイズを低減する機能を用いて画像処理を行うため、低線量で撮影された画像も高画質で提供する事が出来ます。



- 重なりがない：胸部 X 線写真（右）では肺周囲の臓器の重なりによって観察が困難な部位が発生してしまいます。CT（左）は断面像のため重なりの影響がありません。このため 10mm 以下の小さな病変の観察も容易になります。

3. 低線量肺がん CT 検診の方法

- 検査前の処置や検査に伴う痛みはございません。
- 検査時間は約 5 分です。
- 寝台に仰向けで寝ていただき、息止めのアナウンスに合わせて約 10 秒間息を止めていただきます。「息を吸って、止めて下さい」というアナウンスです。「楽にして下さい」というアナウンスが聞こえるまで息を止めていただきます。
- 両手を頭上に挙上していただく必要があります。肩に痛みがある場合は担当者にあらかじめお申し付け下さい。

4. 検査によってもたらされる利益と考えられる不利益

利益：

検診によって肺がんが早期に発見され、早期に適切な治療が受けられた場合、一般にその肺がんによって死亡する事を回避できる可能性が高くなります。また、肺がん以外の肺の病気（肺気腫、肺炎、気管支拡張症、抗酸菌感染症など）や、肺以外の病気（胸部大動脈瘤、心臓や大動脈の石灰化など）を発見できる事もあります。

不利益：

検診で異常が発見されたとしても結果的に肺がんではない事もあります（偽陽性と言います）。発見された異常の確定診断をつけるために、気管支鏡生検や経皮肺針生検、場合によっては外科的手術のもとで行う胸腔鏡生検などの侵襲性の高い追加検査が必要となる事があります（身体的負担）。また定期的な経過観察の必要性も発生する事もあります（経済的負担）。

ちなみに、現在日本で行われている低線量肺がん CT 検診の要精検率は5%程度以下の報告が多いです。

5. 注意事項

- 妊娠中またはその可能性がある方は受診できません。
- 撮影の際は、上半身のネックレスやエレキバン等の金属類を外して下さい。
- 検査前の食事の制限等はありません。

6. このような方にお勧め致します

- 喫煙の有無に関係なく40歳以上の方
- 喫煙指数が600以上の方※
- 有害物質を取り扱っている方（粉じん作業員など）
- 家族に肺がんの人がいる
- 肺がんが心配な方

※ 喫煙指数：1日の平均喫煙本数×喫煙年数